FOWERED BY Dialog

Mfg. lunch boxes having sections of different colour - by injection moulding parts from different coloured resins

and bonding together

Patent Assignee: OGAKI PLASTIC KOGYO

Patent Family (2 patents, 1 country)

Patent Number	Kind	Date	Application Number	Kind	Date	Update	Type
JP 59075004	A	19840427	JP 1982186480	A	19821024	198423	В
JP 1988037644	В	19880726	JP 1982186480	A	19821024	198833	E

Priority Application Number (Number Kind Date): JP 1982186480 A 19821024

Patent Details

Patent Number	Kind	Language	Pages	Drawings	Filing Notes
JP 59075004	A	JA	3	6	

Alerting Abstract: JP A

A box (6) having a chamber (2) is made of a synthetic resin of an approximate colour by injection moulding using dies (D1), (D'1). A box (8) having a partition (4) is made of synthetic resin of another colour by injection moulding using dies (D2), (D'2); the boxes (6), (8) are set in dies (D), (D') and synthetic resin of another colour is injected into the dies, so that both boxes (6), (8) are bonded to one piece, and outside walls, bottom wall, leg portions, etc. are formed to obtain the lunch box (A).

Lunch boxes having chambers of different colour may be mfd. readily.

International Classification (Additional/Secondary): A45C-011/20, B29C-045/14, B29F-001/10, B65D-001/24

Original Publication Data by Authority

Japan

Publication Number: JP 59075004 A (Update 198423 B)

Publication Date: 19840427

Assignee: OGAKI PLASTIC KOGYO (OGAK-N)

Language: JA (3 pages, 6 drawings)

Application: JP 1982186480 A 19821024 (Local application) Original IPC: A45C-11/20 B29C-45/14 B29F-1/10 B65D-1/24

Current IPC: A45C-11/20 B29C-45/14 B29F-1/10 B65D-1/24|JP 1988037644 B (Update 198833 E)

Publication Date: 19880726

Language: JA

Application: JP 1982186480 A 19821024

Derwent World Patents Index

© 2006 Derwent Information Ltd. All rights reserved. Dialog® File Number 351 Accession Number 3052886

PRODUCTION OF LUNCHBOX CLASSIFIED BY COLOR CORRESPONDING TO SECTIONS IN CONTAINER MAIN BODY

Publication Number: 59-075004 (JP 59075004 A)

Published: April 27, 1984

Inventors:

HIBI MASATAKA

Applicants

• OOGAKI PLAST KOGYO KK (A Japanese Company or Corporation), JP (Japan)

Application Number: 57-186480 (JP 82186480)

Filed: October 24, 1982

International Class (IPC Edition 3):

• A45C-011/20

- B29F-001/10
- B65D-001/24

JAPIO Class:

- 31.2 (PACKAGING--- Containers)
- 11.4 (AGRICULTURE--- Food Products)
- 14.2 (ORGANIC CHEMISTRY--- High Polymer Molecular Compounds)

JAPIO

© 2006 Japan Patent Information Organization. All rights reserved.

Dialog® File Number 347 Accession Number 1363404

FOWERED BY Dialog

PRODUCTION OF LUNCHBOX CLASSIFIED BY COLOR CORRESPONDING TO SECTIONS IN CONTAINER MAIN BODY

Publication Number: 59-075004 (JP 59075004 A)

Published: April 27, 1984

Inventors:

HIBI MASATAKA

Applicants

• OOGAKI PLAST KOGYO KK (A Japanese Company or Corporation), JP (Japan)

Application Number: 57-186480 (JP 82186480)

Filed: October 24, 1982

International Class (IPC Edition 3):

A45C-011/20

• B29F-001/10

• B65D-001/24

JAPIO Class:

- 31.2 (PACKAGING--- Containers)
- 11.4 (AGRICULTURE--- Food Products)
- 14.2 (ORGANIC CHEMISTRY--- High Polymer Molecular Compounds)

JAPIO

© 2006 Japan Patent Information Organization. All rights reserved. Dialog® File Number 347 Accession Number 1363404

(9) 日本国特許庁 (JP)

① 特許出願公開

⑩ 公開特許公報 (A)

昭59—75004

⑤Int. Cl.³
A 45 C 11/20
B 29 F 1/10
// B 65 D 1/24

職別記号 101 庁内整理番号 6575—3B 8016—4F 6862—3E 砂公開 昭和59年(1984)4月27日

発明の数 1 審査請求 有

(全 3 頁)

②特

\$

願 昭57-186480

20出

願 昭57(1982)10月24日

⑩発 明 者 日比正隆

大垣市大島町2丁目394番地大 垣プラスチック工業株式会社内

⑦出 願 人 大垣プラスチツク工業株式会社 大垣市大島町2丁目394番地

個代 理 人 弁理士 武藤六三郎 外1名

明 細 書

1 発明の名称

容器本体内を区画に応じて色分けした弁当箱 の製造法

2. 特許請求の範囲

主食品収容健体と、色分け区分に応じた単数又は複数の副食品収容健体を失々異なる色の合成樹脂材により射出成形し、前配主食品収容健体を射出成形機に装着した。 体と副食品収容健体を射出成形機に装着した準 金型に容器内の配列に従い解接壁面が近接を立て、 が放し、該雌金型に対応する雄金割出で発力の は、前配と異なる色の合成樹脂材を射出して で主食品収容像体及び副食品収容を体とした では、容器の外側周盤、底盤及び外側 周盤と降盤の上端緑被機部を形成する如く一体 に成形したことを特徴とする容器本体内を区画 に応じて色分けした弁当箱の製造法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、収容する主食、副食、資物等の食

品の種別に応じて区画する容器本体内を、区側 に応じて色分けした合成柄脂製弁当箱の製造法 に関するものである。

従来給食用に使用する食品盛合せの弁当箱は、 蓋体の上面に合成樹脂フイルムにブリントした 色彩模様を転写したものや、容器本体を二重壁 とし、内外壁を異なる色の合成樹脂により成形 したものが多く使用され、視覚上極めて単調でも った。古くから食事は食品のでは、 変価、色調と共に食品の良さが重要をといれているが、 なり、かつ多にな母目を送る時世ではインスタ なり、かつ多にな母目を送る時世ではインスタ ント食品が流行し、食料はただ潤腹感を除わい 生命を維持する手殿となり、、食器の良し懸しに 対して無感覚になりつゝあり、特に給食用弁当 ではその感が深かった。

しかし生活の向上に伴い 敢近では食器に対する関心が除々にたかまり、学校給食においても 従来のアルミニューム食器よりポリエステル食 器に突り、臭に高級合成樹脂類で色調の良い食 総に移りつらあり、又一般給食用弁当容器に対 する利用者の感覚も大きく変化して職場、作業 場等に配認される紛食弁当の如く、各種食品を 低合わせる弁当容器も単に食品を収容する器と いう単調なものより脱却し、色調のよい食器が 要求され食事を楽しむ傾向があらわれてきた。

本発明はこれ等の傾向に対応するため開発した、収容する食品別に区面を散けた弁当容器の容器本体を該区値に応じて適区分に分け色分けして一体に成形した合成樹脂製容器本体を提供するもので本緒明の実施例を図に示す如く、主我品収容性体と問食品収容は体及びこれ等を内蔵する外別盤を失々異なった色の合成樹脂材を設置して、第1図乃至第8図は上方が開口する箱形の容器内を隔壁(1)によりまな品収容器(2)と助食品収容器(3)に区面し、更に該勘食品収容器(3)内を仕切器(4)、(4)……により複数に仕切った合成樹脂製弁当箱の容器本体(4)を

々の隔壁側々壁(8)、00の外盤面を近接する如く 低入可能とし、両食品収容体体(6)、(8)の内側金 前に密接して、かつ外側壁四、42の上端周緑端 面と隔壁側々騒(9)、00の上端線端面に沿って間 師(13、(13及び49を有する如く形成した雄金型(工) と、前記主食品収容医体(6)と副食品収容医体(8) を排胀した時面食品収容性体(6)、(8)の外側周面 09、00及び底懸外面切、個に沿い連通する容器 水体(A)の外周縣形成用間隙(IS)、四及び脚部凹槽 (21)、(21)……を有する雌魚型(立をセットとして射 出成形機に裝着し、雌魚型(力)に主食品収容像体 (6)及び剛食品収容能体(8)を嵌着し、雄雌命型(D) 、(立)を合わせて雌血型(方の過所に設けたゲート 四より前紀の両食品収容能体(6)、(8)と異なる色 の合成樹脂材を注入すれば、注入された樹脂は 主作品収容能体(0)及び馴食品収容能体(8)と、雌 金型(立間の外尾艇形成用間隔(19)、20)・脚部凹置 (11)、〇〇の上端緑部間隙〇八、〇〇を充填し、更に数 発品収容能体(6)、(8)の隔聚側々駅(9)、07間の間

示すもので、その製造法は、第4図の如く堆魚型 (D1)と雌金型 (D1)をセットとし、射出成形機 に装滑して雌金型 (D1)の適所に設けたゲート(5)より適宜色の合成樹脂材を設金型 (D1) (D1)間に 注入して、上方が開口する主食収容量(2)を有する主食品収容筐体(6)を成形し、金型 (D1)、(D1)より該食品収容筐体(6)を取り出してゲート(5)部の突出バリを切除する。

これとは別に第 5 図の如く、堆金型 (D2)と雌金型 (D2)をセットとし、射出成形機に装着して雌金型 (D2)の適所に散けたケート(7)より前記の主食品収容性体(6)と異なる色の合成樹脂材を該金型 (D2)、(D2)州に注入して上方が闘口する複数に仕切った副食品収容室(3)を有する副食品収容性体(8)を耐金型(D2)、(D2)より取り出してケート(7)部の突出パリを切除する。

成形した前配の主食品収容僅体(6)と副食品収容筐体(8)を終 6 図に示す如く主食品収容窒(2)と 副食品収容室(3)の翻口側を同一方向にして、夫

際好を経て上端部の間際四代充城して、該樹脂材と両食品収容性体(6)、(8)の接触面が溶散して一体に成形され、注入した被合成樹脂材により容器の外側層壁砂、底壁図、脚部図、図……、外側層壁上端線被粉部図及び隔壁上端線被粉部図及び隔壁上端線被粉部図を形成し、成形稜被成形物を両命型(1)、(1)より取り出してケート図部の突出バリを切除し、容器本体(4)を製造する。

尚剛食品収容室(3)内を仕切壁(4)、(4)……により複数に区面し区詢に応じ適宜色分けする場合は色分けする区面を失々關食品収容無体として前配の製造法に準じて製作するものである。

以上の製造法により製作される合成例脂製の多色弁当箱容器は製造工程の増加に伴い、多少コストが高くなるが、その製法は容易でかつ製品は従来の合成樹脂製弁当籍のイメージを装しく向上させるものであり、色調の良い弁当難により食車上を賑あわせ食品を楽しくする等優れた製用的効果を有するものである。

4. 図面の簡単な説明

第1図は合成樹脂製弁当箱の容器本体の斜視図、第8図、第8図は失々第1図のX-X部及びY-Y部の拡大断面図、第4図、約5図は失々主食品収容額体及び副食品収容額体の製法の概要を示す縦断面図、第6図は容器本体の製法の概要を示す機断面図である。

以上

上談別 代理人 弁理士 武 縣 六三郎 學院理 中大士 大 川 昭 勝縣天衛 長川理 電超工

